

大玉中学校3年 渡邊ひめ乃

昨年の八月のことです。私の父がバイクを運転している時に交通事故に遭いました。相手は乗用車で、直進していた父に対して乗用車が右折してきたことにより事故が起きてしまいました。相手の車はコンビニの駐車場に入るために右折しようとしていた時、父のバイクの存在に気づかなかったそうです。父は日頃から安全運転を心がけていたので事故に遭ったと聞いたときすごく驚きました。

その日私は夏休みで部活から帰ってきて自宅に居ました。仕事に行っている母から父が事故に遭ったと連絡を受け、家族全員で搬送先の病院に向かいましたが、父はICUにおり意識不明の重体でした。幸いどちらもスピードが出てなかった事もあり、大きな外傷もなく次の日意識が戻りすごく安心しました。

現在は、多少後遺症が残ったため日常生活を送りながらリハビリを続けています。今まで身近にこのような事故に遭った人が居なかったため、交通事故ということに具体的なイメージはありませんでしたが父が事故に遭ったことで私たちの日常生活が一変し、こんなにも大変だということが分かりました。

母は仕事しながら毎日事故後の様々な手続きをしていてすごく忙しそうでした。またコロナ禍だったこともあり入院中の父に面会することはできず父の回復の様子は病院からくる電話でしか確認できなかったので悲しかったです。事故に遭った本人はもちろん辛くて大変だと思いますが家族も辛く大変な思いをしていることが分かりました。

福島県の交通事故件数は、七月末で千六百三件起きており去年よりも九十四件増えていて、死者数は三十三人で去年よりも十一人増えています。私はその事故の件数や死者数の多さにとってもびつくりしました。みんな気をつけて運転しているんだろけどどちよつとの不注意で事故が起きてしまっているのが現状です。事故の加害者にも被害者にも双方に家族はいます。事故の当事者たちだけではなく周りの人たちにもたくさんの影響を与えてしまうのが交通事故です。

私も大人になったら車を運転する時が来ます。少しの不注意で事故は起きてしまうし、自分だけではなくたくさんの人に迷惑をかけてしまう事を忘れないことです。だから私は日頃から家族が出かける時は、無事故で帰ってきてもらうために「気をつけて」「いつかいつか」「を言いつつ心掛けています。

交通事故を防ぐためには日頃からの意識がすごく大切だということを忘れずに過ごしていきたいと思います。

「ひと呼吸待て」は、今から58年前、高校の先生に教訓として覚えておけと言われた言葉で、75歳の現在迄、時々思いだし日常に生かしています。そのきっかけはスポーツ大会終了後、現地解散で競技場から急ぎ足で家に帰る同級生の乗った自転車と、当時福島市内を走っていた路面電車との接触による死亡事故でした。詳しい原因は分かりませんが、チヨット一呼吸おいて、帰ってれば事故に遭わずに済んだのではないかと先生の話を。ほんの「ひと一呼吸」3秒、或いは30秒の時間の間を取ってれば命を失うことはなかったのではないかと。何か急いでいて心に余裕がなかったのではないかと。

あまりにも早い同級生の死を今でも覚えています。

その時、言われた先生の言葉が「3秒」「30秒」「3分」の時間、「ひと呼吸」おく、「時間に余裕」を持つなど、心の余裕を持つ為の時間、「二つの間」は長い人生の中で無駄な時間ではないと教えられ、その教訓が今でも心に残っています。

自分自身の運転行動を顧み、ドライバーにとつての3秒間は、一体どのくらい走行するのか計算してみました。

時速60kmで約50m、40kmで約33m。20kmで約17m。高速走行の場合は何と3秒で約100m走る計算になります。日常意識している方はいないと思いますが、参考に。現在市内の縫製会社に勤務し、毎朝自宅から県道へ出るにあたり、左右から来る車の間隙を捉え、この「3秒」「30秒」の間の取り方は、心に余裕を与え、安全確認に役立っています。

遠距離での運転には自信があつたのですが、最近夜間運転、長時間の高速運転など、従来とは違う衰えを感じる事が多く、この「ひと呼吸待て」の3秒の間を心に置きながら安全運転に心がけている今日この頃です。

特に今年は猛暑に見舞われ、ドライバーにとってはイライラすることが多く、あおり運転、居眠りなどがちですが、今年の運動スローガンにある「運転はゆとりとマナーの「二刀流」を念頭に、これからも運転を楽しみたいと思っています。



～大会長挨拶を述べる 高松 義行本宮市長～

南達交通安全新聞

年末年始の交通事故防止県民総ぐるみ運動

運動期間 令和5年12月10日（日）～

令和6年1月7日（日）までの29日間

運動スローガン 「なにで来た？」 乾杯前の 合い言葉

合同出動式

日 時 令和5年12月8日（金）午後4時30分～

会場 サンライズもとみや

内容 「一日警察署長」に平愛梨さん（タレント・女優）を任命
モットコムパーソナリティとのトークショーやなりすまし詐欺の寸劇に参加してもらう



出動式終了後、本宮駅前において街頭キャンペーンを実施

第34回 南達交通安全大会

南達一市一村にあっては、交通量が増加しており、これに伴い交通事故の発生も増加する可能性を持っています。

さらに、高齢化社会を迎え、全国的にもお年寄りの犠牲者があとを絶たないことから、事故防止のための抜本的対策を講じる必要性に迫られています。

本大会は、このような情勢をふまえ、南達一市一村が一丸となって総合的な交通事故防止対策を推進することを目的とし、令和5年11月11日（土）にサンライズもとみやで開催されました。

大会では、交通安全功労者や地域別交通事故防止コンクールの受賞者に、賞状等が贈られたほか、交通安全作文コンクールで最優秀賞を受賞した子ども達が作文の発表を行いました。

南達交通対策連絡協議会
本宮市・大玉村交通対策協議会 郡山北警察署本宮分庁舎

◎表彰状伝達

東北管区警察局長・
東北交通安全協会会長連名表彰

【交通安全功労者】 菊池 啓治（本宮市）

【優良運転者】 伊藤 満（本宮市）

交通安全誉章（緑十字銅章）

【交通安全功労者】 加藤 悦子（本宮市）

【優良運転者】 冬室 昇（本宮市）

国分 金男（大玉村）

福島県警察本部長・

福島県交通安全協会会長連盟表彰

【交通功労者】 中條 弥朱（大玉村）

斎藤 雅彦（本宮市）

【優良運転者】 安田 敏（大玉村）

野内三佐子（本宮市）

◎感謝状贈呈

前大玉村交通安全教育専門員

斎藤 マキ（大玉村）

◎地域別交通事故防止コンクール

第1位

本宮地区交通安全協会第5分会（本宮市）

第2位

本宮地区交通安全協会岩根分会（本宮市）

第3位

本宮地区交通安全協会大山分会（大玉村）

第4位

本宮地区交通安全協会和田分会（本宮市）

第5位

本宮地区交通安全協会第4分会（本宮市）

第6位

本宮地区交通安全協会長屋・稲沢分会（本宮市）

◎交通安全作文コンクール

応募総数409点

【小学生低学年の部】

最優秀賞 糠沢小学校 2年 菅野 結衣

優秀賞 糠沢小学校 3年 遠藤 想太

佳作 本宮まゆみ小学校 3年 白岩 美怜

宗像 陽太

小泉 悠真

玉井小学校 2年

【小学生高学年の部】

最優秀賞 岩根小学校 5年 会田 琉鳳

優秀賞 大山小学校 4年 佐々木さくら

佳作 本宮まゆみ小学校 4年 岩谷 花

岩戸 彪雅

斎藤 湊斗

6年 渡邊ひめ乃

【中学生の部】

最優秀賞 大玉中学校 3年 渡邊ひめ乃

優秀賞 本宮第一中学校 2年 國分 和華

佳作 白沢中学校 3年 林 星穂

【一般の部】

最優秀賞 本宮市 遠藤 基栄

優秀賞 本宮高等学校 1年 國分 梨生

佳作 本宮高等学校 1年 齋藤あかね



「小学生低学年の部」

糠沢小学校 2年

菅野 結衣さん



「小学生高学年の部」

岩根小学校 5年

会田 琉鳳さん



「中学生の部」

大玉中学校 3年

渡邊 ひめ乃さん



「一般の部」

遠藤 基栄さん

小学生低学年の部

【最優秀賞】

『たいせつなルール』

糠沢小学校2年

菅野 結衣

わたしたちの生活する中には、たくさんルールがあります。なぜそんなにたくさんルールがあるのでしょうか。なぜ、まもらなければいけないのでしょうか。

わたしは、さい近、じてんしゃにのれるようになりました。おとうさん、おかあさんにじてん車にのる時に、まもらなければならぬルールを三つ教わりました。

一つ目は、じてん車にのる時は、ヘルメットをかぶることです。ヘルメットをかぶるとあついし、「じやまだな、いやだな。」と思いました。そこで、ヘルメットをかぶらなければいけないいうをしらべてみました。じてん車にのつてなくなった人の内、はん分い上が頭をつよくうったことでもなくなっていました。また、ヘルメットをかぶっている時と、かぶっていない時では、なくなるかくりつがばいい上になることが分かりました。ヘルメットをかぶることで、たいせつないのちをまもることができるのです。

二つ目は、じてん車でも交差点でかならず止まり、左右をかくにんしてからわたることです。わたしは、友だちとあそんで帰っていた時に、交差点できけんな車を見ました。しんごうが赤なのに、そのままだやいスピードではしっていました。わたしはその車を見て、「もしその車がこちらにむかってきたら、あぶないな。」とこわい気持ちになりました。交差点は一ばんじこがおきているばしだそうです。車や人にぶつからないように、自分で左右をかくにんしてわたりたいと思います。止まれのひょうしきがあるばしでは、かならず止まり、左右をかくにんしてからすすみたいと思います。じてん車は、車のなかまで。歩いている人にぶつかったら、自分だけでなく、あいての人のいのちまで、うばってしまうかもしれません。だから、じてん車にのっている時も交差点では気をつけなくてはいいけないと思いました。

三つ目は、二人のりをしないことです。二人のりをすると、バランスがとれず、ふらふらしたうんでんになり、車どろがわに、とび出したり、たおれたりするかもしれません。いつしよにのっている人も、自分も、車の人もみんなきけんな目にあってしまいます。二人のりは、ぜったいにだめだと教わりました。

わたしたちのいのちは、たいせつでかえのけないものです。ゲームのせかいのようにはリセットをしてやりなおすことはできません。いのちは一つです。だからこそ、ルールをまもることで、たいせつないのちをまもっていることを知りました。みんなが交通ルールをまもることでじこがへり、いのちをまもることができるのです。そのルール一つ一つにはいみがあること分かりました。たいせつなルール。わたしも大すきなぞくとずつといっしよにいたいで、しっかりと交通ルールをまもってすごしたいです。

小学生高学年の部

【最優秀賞】

『交通事故にあって分かったこと』

岩根小学校5年

会田 琉鳳

「気をつけてね。」

お母さんがいつもぼく達に言ってくれるこの言葉には、意味があったのです。

ぼくは、小学校四年生の時に、交通事故にあいました。放課後、自転車で友達の家遊びに向かっているとき、十字路がありました。ぼくは止まらずに飛び出しました。そのときです。直進してきた車とぼくはぶつかりました。自転車の後輪が車の角に当たり、ぼくは三メートルほど飛ばされてたおれました。その時のぼくは、おどろきのあまり、すぐにその場からにげてしまいました。

音を聞いた近所の人が、学校やぼくのお母さんに連絡をしていたようで、お母さんは心臓が飛び出しそうなほど、びつくりしたと後から聞きました。すぐに、お母さんや運転手の方がぼくを探しにきました。ぼくは転んだときにできたすりきずがあり、少し血が出ていたくらいでした。自転車も少しへこんだだけでしたが、車には大きなへこみがありました。運転手の方は何度もあやまっていました。お母さんは心配で泣いていました。

悪いのは、止まらず飛び出したぼくの方なのに、車を運転していた方が悪いことになつてしまいました。本当はぼくが悪いのに。

ぼくは事故にあった時、いっしゅんでだめだと思いました。少しのすりきずですみ、運が良かったと言えはそれまでだけど、少しのスピードのちがいや、タイミングがずれていれば、命があぶなかったかもしれませんでした。

ぼくは自転車で飛び出したことを、本当に後悔しました。たくさんの人を心配させてしまったこと。運転手の人を悪者にしてしまったこと。そして何よりもお母さんを泣かせてしまったこと。

お母さんは、いつもぼくや家族が出かける時に、

「気をつけてね。」

と言ってくれます。その言葉は、ただ言っているのではなく、ぼく達のことを思っている言葉なのだと知りました。

ぼくの命は一つしかありません。

ヘルメットをかぶること。

一時停止をして、左右を確認すること。

学校で習っている当たり前のことが、どれだけ大事なことなのか分かりました。そして当たり前のことを守っていくことが、自分と相手を守ることになるのだと思いました。交通事故は、だれも幸せにしません。みんなが悲しみます。

これからは、二度と事故にあわないように交通ルールを守って生活していきたいです。